

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 29 年 5 月 24 日現在

機関番号：13901

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2016

課題番号：26750184

研究課題名(和文) うつ病女性の家事労働におけるサポートの現状と阻害因子

研究課題名(英文) Inhibition factors for social support in depressed women engaged housework

研究代表者

星野 藍子 (Hoshino, Aiko)

名古屋大学・医学系研究科(保健)・講師

研究者番号：10534406

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,300,000円

研究成果の概要(和文)：うつ病に罹患した女性の家事労働上の困難や、サポートの阻害因子を解明するため、特に他者のケアを含む介護もしくは育児を担う女性に焦点を当て、健常女性・うつ病女性にインタビュー調査・アンケート調査を実施した。インタビューでは、育児を実施しているうつ病女性において認知のゆがみによる育児への不安、遂行機能の障害による育児活動の困難が抽出された。アンケートでは健常群の育児を含む家事において、性役割意識と役割や責任を強く意識するストレス対処行動傾向に負の相関、性役割意識とサポートの満足度に正の相関がみられた。これらから育児においては性役割意識がサポートやストレス対処に影響を及ぼしていることが示唆された。

研究成果の概要(英文)： The present study investigated difficulties in housework and inhibition factors for social support in depressed women. We focused on especially women engaged in looking after child or aged people, and conducted the survey of interview and questionnaire survey. The result of interview showed that depressed women engaged in child rearing felt fear based on pathological cognition caused by depression, and have difficulties in child rearing because of disabilities executive functioning. In the result of questionnaire survey, scores of accepting responsibility type of stress coping inventory in normal women were significantly negative related to scores of the scale of egalitarian sex role attitudes. Also, there were positive significant relationships between satisfaction of social support and sex role attitudes. Those results suggested that sex role attitudes effected on social support and ways of stress coping in normal women engaged in child rearing.

研究分野：精神障害リハビリテーション

キーワード：うつ病 女性 家事 育児 介護

## 1. 研究開始当初の背景

### (1) うつ病女性の家事労働に対する支援

家事労働（以下家事）に従事するうつ病女性は、入院時のように家庭環境から離れている時には休息を取り、回復を図ることができるが、一度家庭に戻ると、その役割から長時間の家事に従事することが多く、再燃することが多い。しかしうつ病患者に対する労働支援は、男性の賃金労働に関するものが中心で、家事支援は労働としての着目度が低く、ほとんど行われていない。これまでの研究で報告者は、賃金労働・家事労働上のストレス要因のうちうつ病に影響の大きい要因の一つに「家事でのサポートの不足」があることを明らかにした。しかし家庭内に他者が入ることを嫌う文化背景や対象者の強い役割意識などが影響し、家事ではサポート提供が行われても対象者がその適切な利用に至らないことが多い。そこでうつ病女性の家事上のサポートの現状とその阻害因子の解明が必要である。

### (2) 介護・育児を含む家事労働におけるうつ病支援

また中でも、介護や育児など他者のケアが含まれる家事労働での困難は対象者や家族全体への影響が大きい。またこれらの実施時期は女性のうつ病の好発年齢とも重なり、支援を必要とする女性は多い。しかしながら産後うつに関する報告は多いものの、具体的な困難事象、ストレス要因、サポート阻害因子に関する報告は少ない。イギリスやオーストラリア、カナダ、ドイツなどでは母親に何らかの困難や障害がある場合、家庭の維持を目的に、子供、すなわちその育児対象者を連れて同様にリハビリテーションを受ける、共同入院できる母子リハビリテーションサービスもあるが、日本では行われていない。家事労働は文化の影響を大きく受ける内容であり、本研究で本邦のうつ病・健常女性の家事労働上の困難が明らかになることはそれらのシステムづくりにも寄与するものと考えられる。

## 2. 研究の目的

日本における育児・もしくは介護に携わるうつ病の女性・健常の、家庭内での労働（家事労働）上の困難、サポート阻害因子について解明する。

## 3. 研究の方法

うつ病を有する対象者（うつ病群）と有していない対象者（健常群）の2群に対して、(1)インタビュー調査、(2)アンケート調査を実施した。両群の共通の条件として、20-80歳の女性で、未就学児を含む2名以上の家族と同居しているか介護を必要とする1名以上の家族と同居している、家事と育児もしくは介護を主担当として実施していることとした。これに加え、健常群では、これま

でに精神疾患の既往がないこと、過去一週間の抑うつ状態を評価するCES-Dがうつ病の有無を示す16点未満であることとした。またうつ病群では、主治医によりDSM-IVにてうつ病と診断されていること、CES-D得点が16点以上であること、愛知県内の精神科クリニックもしくは精神科病院に通院中であることとした。またうつ病群の除外基準として、その他の精神疾患を合併している者とした。また就労の有無については両群において問わないこととした。

### (1) インタビュー調査

同意の得られた対象者に対して、研究者と対象者2名で30分程度の半構造化インタビューを実施し、「育児もしくは介護や家事において大変だと感じる時はどのような時ですか？」という質問からはじめ、具体的な状況や内容を聴取した。またその状況にどのような感情を持っているか、どう対処しているかという事についても、具体的な出来事を通して、併せて聴取した。データは質的な方法で処理を行った。その文書を何度も読み、文脈を踏まえ、意味の通る最小限文章の単位で区切り、一つ一つを切り離してスライスを作成した。その後健常群、うつ病群にかかわらずそれらのスライスの一つにまとめカテゴリー化した。その後、作成した各カテゴリー内で健常群、うつ病群別に何枚のカードが含まれるか、確認した。これらの処理は質的研究の経験のある共同研究者と共に実施した。

### (2) アンケート調査

(1)の結果をベースに基礎的情報（年齢・家族構成・家事や育児・介護の実施状況・就労状況）と下記の内容を含む無記名アンケートを実施した。

- ・SSQ(ソーシャルサポート質問紙)：ソーシャルサポートの授受状況と満足度

- ・SCIラザルス式ストレスイベントリー：ストレスの高い出来事に遭遇した時の対処行動の特性

- ・平等主義的性役割態度スケール短縮版(SESRA-S)：男女の性役割に対する意識

- ・家事労働版NIOSH職業性ストレス調査票(一部)：家事における裁量権の度合い

これらの結果を各群、育児・介護別に比較検討した。

## 4. 研究成果

### (1) インタビュー調査

育児・介護別に、まず、「育児や介護が第変だと感じる時」、「困難な育児や介護に対する感情」、「困難な育児や家事に対する対処法」という3つの大きなカテゴリーに分け、その内容を分析した

育児を含む家事労働上の困難の特徴

「育児や家事が大変だと感じる時」に

は「子供自身に起因する困難さ」、「夫の参加が不十分」、「育児に対し、術がなく追い詰められてしまう反応」というカテゴリーが含まれた。また「困難な育児や家事に対する感情」では「不安」、「協力者への正の感情」、「現状への満足」のカテゴリーが含まれ、「困難な育児や家事に対する対処法」では「考え方を变化させる」、「自分のやりたいことをしてストレスを解消する」、「仕事でストレスを解消する」であった。

#### 介護を含む家事労働上の困難

「介護や家事が大変だと感じる時」では「介護の対象者が関連する困難さ」、「女性自身の心身の不調やストレス」、「タイムリーで求める内容の外的な支援を受けられない」、「経済的な問題に直面化する」、「周囲からの目が気になる」、「困難な介護や家事に対する感情」では「他の家族には迷惑をかけられない」、「どうにもならないというあきらめや我慢」、「先行きの不安」、「さみしさ」、「困難な育児や家事に対する対処法」では「思っていることを対象者に伝える」、「身近なストレス解消を自分で見つける」、「話を聞いてもらう」、「考え方を考える」、「休む」であった。

#### うつ病女性の特異性

育児を含む家事労働における「育児に対し、術がなく追い詰められてしまう反応」、「不安」はうつ病女性のカードのみが含まれているカテゴリーであった。この背景にはうつ病によって生じる認知機能面での低下や、物事に対する捉え方のゆがみなどがあることも思われる。これらにより、より育児状況が困難になることが予測される。また、周囲の状況や環境を適切に捉えることができなくなっているエピソードもこれらのカテゴリーには含まれ、本研究のテーマの一つであるサポートの授受にも影響を及ぼす点であることが示唆された。支援内容の検討など具体的な支援体形の検討にも寄与する内容と考えられ、認知行動療法や認知リハビリテーション、休息からの段階的なりハビリテーションなどが検討されるべき内容に含まれるであろう。

#### 育児・介護における困難の差異

育児では対処方法の多様性に乏しく、考え方を考えるなどの女性内で完結し、直接的な問題解決には至りにくい対処方法で占められていたことが特徴的であった。一方介護ではあきらめ、先行きなどの将来への不安が特徴的事項として抽出された。

#### 展望

今回のインタビュー調査では、育児や介護に従事する女性の特異的な状況、うつ病での特異性が抽出され、それぞれの労働、健康状況に応じた特異的な二ドがあることが示唆された。本邦での詳細な調査はこれまで少

なかった点からも有用な結果と思われる。また支援体形においても、それらの点が十分に考慮されるべきであろう。

#### (2) アンケート調査

##### 解析結果

健常育児群（平均年齢 35.12±8.18 歳）、健常介護群（平均年齢 58.25±5.72 歳）のデータを比較検討した。健常群においては育児・介護の労働観での有意な差は見られなかった。

また健常群の育児群においては、SCI（ストレス時の対処傾向）において、年齢と Acc（責任型：誠実さ・自分の役割意識が強い）、Sel（冷静型：気分をおさえる）に有意な正の相関関係がみられた。

また性役割意識を示す SESRA と SCI の Acc に有意な負の相関がみられた。性役割意識の低い女性ほど、ストレス時に責任型の対処を選んでいることが示唆された。また一方で SESRA とソーシャルサポートの満足度を示す SSQ の得点では有意な正の相関がみられ、性役割意識の強いものほど、ソーシャルサポートに満足している傾向がみられた。

健常群の育児においては性役割意識が一つの影響を及ぼしていることが示唆された。またこういった傾向は健常介護群においては見られなかった。

うつ病群の解析については症例数の不足により、現在データを追加収集中である。

##### 展望

健常群のデータからは支援の授受やストレス対処の在り方には、女性自身の持つ価値観の一つ性役割意識が関連していることが示唆された。これらは時代や社会構造の変化によって、大きな変化が起きる部分であり、現在女性の社会進出が急速に進んでいる背景から、より詳細な調査が必要な点であると思われる。世代間や就労状況の有無などの件等も併せて行う必要があると考えられる。

うつ病群の認知にこれらがどのような影響を及ぼすのかという点についても検討されるべき点と考えられる。今後詳細な調査を継続していきたい。

#### (3) 支援の先進国である英仏での基礎調査と情報交換・連携構築

背景にある通り、日本のリハビリテーションでは母子共に支援する支援形態は存在しておらず、作業療法としても行われていない。また本研究は日本文化をベースとした性役割意識や日本の社会構造の影響を大きく受ける内容である。そこで精神科のリハビリテーションの先進国であるフランス・イギリスの主要病院や大学を訪問し、作業療法のシステムの調査・見学を行った。フランスでは・Hôpital Esquirol、Group hospitalier de la Petie-Salpetriere、The instut de Formation en Ergotherapie -ADER を訪問、イギリスでは、・Brunel University London、The CNWL

Recovery & Wellbeing College を訪問した。また二か国で勤務する作業療法士や研究者と本研究に関するディスカッションを実施した。また今後の研究連携に関して関係の構築を行った。今後国別比較等を通して、日本の女性に必要な支援を検討する研究へと発展していきたい。またその内容に関しては論考としてまとめ、報告した。

5. 主な発表論文等  
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計4件)

フランス・イギリスにおける精神科作業療法 その現状と我が国との比較、星野 藍子、作業療法(掲載決定・印刷中)

特集 うつ病患者がもとの光景に立ち返るには 家事・育児への復帰、星野 藍子、臨床作業療法、査読無、14(1)、32-36、2017。  
<http://www1.tcn-catv.ne.jp/seikaisha/>

Relationships between Depression and Stress Factors in Housework and Paid Work Among Japanese Women, Aiko Hoshino, Shigeaki Amano, Kunifumi Suzuki, Mami Suwa, Hong Kong Journal of Occupational Therapy, 査読有, 27, 35-41, 2016.  
DOI:10.1013/j.hkjot.2013.03.001

うつ病女性の家事労働に置けるストレス状況、星野 藍子、鈴木 國文、諏訪 真美、精神科治療学、査読有、29(7)、933-939、2014。  
<http://seiwa-pb.co.jp/search/bo01/bo0102/bn/index.html>

〔学会発表〕(計3件)

Characteristics of child rearing and elderly care based on the difficulties faced by healthy women. Aiko Hoshino, Mami Suwa, the 1st Asia-Pacific Occupational Therapy Symposium, 2017年10月21-22日, Taiwan(発表確定)。

未就学児を持つうつ病女性と健常女性の育児・家事における困難感から見る労働特徴。星野 藍子、諏訪 真美、第51回日本作業療法学会、2017年9月22日、東京国際フォーラム(発表決定)。

Association of depression and stressors in work and housework of women, Aiko Hoshino, Kunifumi Suzuki, Mami Suwa, 16th International Congress of the World Federation of Occupational Therapists, 2014年6月20日、パシフィコ横浜。

〔図書〕(計1件)

イラストでわかる発達障害の作業療法、「発達障害-広汎性発達障害」、医歯薬出版社、辛島 千恵子、星野 藍子、2016年

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)  
取得状況(計0件)

〔その他〕

・愛知県内精神科クリニック医師勉強会「学ぶ会」講演(依頼)「女性のうつ病と労働 家事労働に着目して」、星野 藍子、2016年7月16日(久屋大通伊藤メンタルクリニック)。

6. 研究組織

(1)研究代表者

星野 藍子 (Hoshino Aiko)  
名古屋大学・大学院医学系研究科リハビリテーション療法学専攻・講師  
研究者番号:10534406

(2)研究協力者

諏訪 真美(SUWA Mami)  
医療法人成精会 クリニックアンセム